

論文要旨

所属ゼミ	河野宏和 研究会	学籍番号	80630120	氏名	大木 理絵
(論文題名)					
日中生産管理用語の対比研究					
(内容の要旨)					
本論文の目的は、中国での日系企業生産管理部門で働く従業員に役に立つ資料を提供することである。筆者は元々、中国での日系企業の現地管理に関心があり、在中駐在員の仕事にどのような困難があるのか、その困難を解決する一助となるような研究をしたいと考えていた。研究を進めるうちに、日本人と中国人従業員のコミュニケーション不足が、いくつかある問題のうち、重要なものではないかという考えを持った。特に、筆者は元々中国語学が専門であったので、言語、つまり日本語と中国語の翻訳の問題に関心を持った。駐在員が現地従業員とコミュニケーションを取るには、大きく分けて、①通訳を介す、②中国語で話す、③日本語で話す、④英語で話す、の4通りの方法で話すと考えられる。いずれの場合も、日本人同士で話すのとは違い、間に翻訳という作業が発生する。その場合、専門用語はどのように訳せばいいのだろうか。生産管理の分野では、印刷媒体で役に立つ日中・中日辞書は、筆者の調べた限りでは見つからなかった。電子媒体では、既に、現地で実際に働いている方による、素晴らしい用語集がインターネットで公開されており、筆者もたびたび利用している。(生産管理用語和英辞典http://members.ld.infoseek.co.jp/makoto_wat/)しかし、この用語集は、技術者の方が現場に必要な用語の日本語・中国語一対一対応式の用語集であり、専門用語について詳細な内容説明や使われ方を解説してあるわけではない。日本企業で培われた概念を、違う言語で表現し、相手に正しく理解してもらうにはどうすればいいのか。この問題を、生産管理の専門用語についての、日本語での表し方と中国語での表し方の対比を通じて考察する。日本語の文献として『I E レビュー』、中国語の文献としてCNKI (http://www.cnki.net/index.htm)を用い、特定の用語の実際の使われ方を調べた。この調査結果を通じ、辞書にも載っていない専門用語を外国語の文脈で理解する一般的な手順を示した。また、通訳など仲介者の価値観を入れずに、客観的に調べる手順を示した。					